

自治協ニュース

第0405号
発行者
八本松住民
自治協議会
R04.09.20

マンホールトイレ設置可能に

～市 総合防災訓練 中学校グラウンドにて組立設置確認～

東広島市は8月26日（金）総合防災訓練を実施。今年度も各自治協ごとの開催となり、八本松住民自治協議会（会長 土久岡章治、以下 自治協）、防災委員会（会長 牧野美三夫）は八本松地域センターにて避難所開設訓練、中学校でのマンホールトイレの設置訓練を行った。

毎年開催されてきた東広島市 総合防災訓練。今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される中、各住民自治協議会ごとの個別実施となった。地震を想定した訓練で2部制での開催とし、前半は八本松地域センター



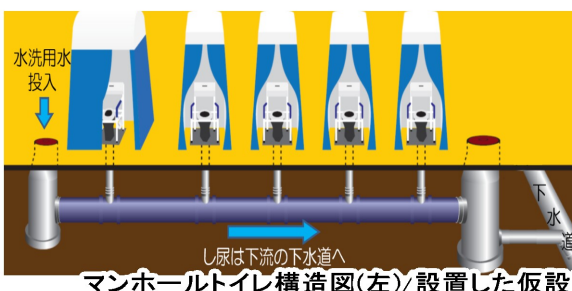
訓練の二環で来場者の受付

にて避難所開設訓練、高垣市長と土久岡自治協会長のタブレット端末（iPad）による避難所開設状況報告訓練を実施。この他にブルーシートを敷きゾーニング、簡易テントを設置し、寝泊まりする状態を体験した。



牧野防災委員長

その後、八本松中学校グラウンドに移動、今年度完成したマンホールトイレに実際に簡易組み立て式トイレを組み立、設置。市下水道管理課の方の説



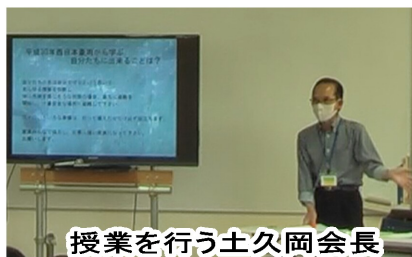
マンホールトイレ構造図(左)/設置した仮設トイレ(右)



明を聞きながら参加者が協力し、完成させた。平成30年7月豪雨の際、被災地域のおよそ3割の方が断水によるトイレの問題を上げている。さらに、大きな災害の発生から3時間以内は3〜4割、9時間以内では8割弱の方がトイレに行きたくなるなどの調査結果から、大災害時に迅速に多くのトイレ機能を確保するよう、国土交通省がガイドラインを策定、普及啓発に寄与している。

豪雨災害から学ぶ避難の大切さ 小学校 防災学習

八本松住民自治協議会（会長 土久岡章治、以下 自治協）は八本松小学校5年生を対象とした防災学習授業の講師として自治協から土久岡会長、牧野防災委員長、横井防災副委員長、中本地域センター長が参加した。



授業を行う土久岡会長

この防災学習は毎年5年生を対象に総合学習として実施されており、今年も「自分たちの地域を知って起こりうる災害に備えよう」と題し、豪雨災害に焦点を当て、集中豪雨の凄まじさ、平成30年西日本豪雨の被害状況を動画や資料を交えて説明した。



日頃からの避難や訓練の重要性を語る牧野委員長

説明の後、児童一人一人に八本松小学校区のハザードマップを配布。自宅の地域を見つければ、自宅周辺の危険な箇所（ハザード）を確認した。

牧野防災委員長は「西日本豪雨発生前から毎年訓練を実施しており、毎年実施する訓練に疑問を持つ地域住民の声もあったが、実際に西日本豪雨が発生し、地域から一人も犠牲者を出すことがなかった。やはり日頃からの避



中本センター長(左)/横井副委員長(右)

難訓練は大切だ。」と児童たちに語った。児童たちは本学習をとおして「自分たちの地域の危険な箇所を知って、いち早く避難することを意識していきたい。」と話した。



防災委員会の話を聞く生徒